

## 令和4年度 香川県立琴平高等学校 学校評価

本校では次の教育方針のもと、本年度の重点目標を掲げ教育活動に取り組んできました。

### 【教育方針】

心身を鍛え、生涯にわたって学び続ける意欲を養い、地域社会の一員としての自覚と国際的視野を育み、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人間の育成を目指し、次のような教育方針のもと、家庭や地域との連携を図りつつ、明るく活力に満ちた学校づくりを推進する。

1. 人間や自然を愛する心を養い、心ゆたかな誠意ある人間の育成に努める。
2. 自主、自立の精神を養い、心身ともにたくましい熱意あふれる人間の育成に努める。
3. 広く高い知性を養い、郷土を愛し、社会の発展に貢献する創意に満ちた人間の育成に努める。

### 【本年度の重点目標】

地域社会の中核として活躍するたくましい人材の育成 — 地域で学び、地域で育つ琴高生 —

- ① 基礎学力の向上 ② 基本的生活習慣の確立 ③ 進路意識の高揚 ④ 地域連携の推進

今年度の教育活動に関して、自己評価、生徒からの授業評価、学校評価アンケート(生徒・3年保護者・教員)を実施しましたのでその結果を報告します。

また、令和5年2月に学校関係者評価委員会を実施し、自己評価、生徒からの授業評価、学校評価アンケートの集計結果を提示し、分析と協議を行った結果、下のような学校関係者評価をいただきました。

### ○学校関係者評価

#### <生徒からの授業評価・学校評価アンケート等について>

○授業評価の「努力の成果が成績に表れている」に対する肯定的評価が低いのが気になる。学年が進行するにつれ改善されているので、引き続き達成感が得られるような工夫を重ねてほしい。

○クラッシーの活用を保護者、生徒ともに強く望んでいるようである。来年度は一人一台タブレットが生徒全員に貸与されるとも聞いた。両方とも活用方法について検討をしてほしい。

○人権について熱心に活動しているのがわかっているだけに、人権についての保護者の評価が低いのは残念だ。学期毎に「人権便り」を発行しているということだが、より丁寧に啓発を行ってほしい。

○保護者からは、悩みを聞いてもらってありがたい、という意見もある一方で、相談したくてもできなかった、という意見も見受けられる。面接週間の設定等もしているとのことだが、寄せられた生徒の悩みを担当教員一人で抱え込むのではなく、関係教員と連携して、チームとして対応することを続けてほしい。

#### <教育活動等について>

○部活動も、ボランティア活動も新型コロナウイルス感染症の影響がありつつも、徐々に以前の水準に戻りつつあるようで喜ばしい。

○進路については例年とほぼ変わらないとのことだが、より一層きめ細やかな指導をしてほしい。

○18歳成人に伴って投票権を持つ生徒たちに、部活動でも日程を配慮して投票に参加できるようにしているのはよいと思う。投票に際して何をどう考えればよいのか、ということについては指導が必要だと思うので、より一層の取組をお願いしたい。

○ボランティア調査の結果も、新型コロナウイルスの影響を受けているが、昨年、一昨年に比べると回復してきた。

令和4年度学校評価 自己評価票（校務分掌・学年団）

香川県立琴平高等学校

	本年度の重点目標	具体的取り組み (数値目標)	実施状況 (中間評価)	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価)	評価と来年度の課題
総務	ボランティア活動や体験学習の機会を増加する。	地域との連携強化、ボランティア活動参加の案内。 (参加のべ数2,500人以上)	B	コロナ禍の影響で未だに募集は少ない。しかし、保育のボランティアを中心に、数名を送ることができた。	B	保育、献血のボランティアを中心に送り出すことができた。今後、周知の頻度を上げて、さらに参加者を募りたい。
	「朝の読書」をきっかけに、読書活動を推進する。	図書貸出数1,000冊以上。	B	今後、「読書週間」の催しなどを通して、図書貸出数増加につなげたい。	B	貸出数は80%以上達成できた。しかし、図書を借りる生徒は固定されている。今後、より生徒のニーズに合った図書を充実させ、貸出数の増加を図る。
教務	生徒が興味・関心を持って取り組む授業を行い、学びを深め、進路表現につながる学力をつけさせる。	ICT機器やClassiの活用等により、興味・関心を高め、思考力や表現力につなげる。 分かる授業作り：授業アンケート等による適宜改善。 アンケートによる授業評価。 各項目で「当てはまる＋やや当てはまる」：80%以上。	B	ICT機器やClassiの活用は進んでおり、自宅待機生徒に対するオンライン授業の実施も進んだ。 授業アンケートを10月に実施したうえで、具体的な取り組みの見直しを進める。	B	授業アンケート(A:当てはまる B:やや当てはまる) ○説明・板書は分かりやすい A:73% B:23% ○進度はちょうどよい A:73% B:23% ○教え方・進め方に工夫を感じる A:70% B:27% いずれも昨年度よりAの割合が上がっている。 一方で、 ○努力した成果が成績に表れている A:49% B:40% と生徒の自己評価が低く、いかに生徒の取組を成果に結びつけるかが課題である。来年度より生徒に1台ずつタブレットが配付されるので、その効果的な活用も課題である。
	地域連携を進め、地域に愛される学校づくりを推進する。	HPやYoutubeを活用し、「学校の見える化」や魅力の発信を推進する。 1日体験入学参加人数を前年度より増やす。	B	HPやYoutubeにより学校の魅力や生徒の活躍を発信する機会は増えている。1日体験入学の参加者は148名→186名と増加したが、十分な人数とはいえず、さらに本校の魅力を伝えていく必要がある。	B	HPやYoutubeにより学校の魅力や生徒の活躍を発信する機会はさらに増えているが、新型コロナウイルス対策のため、異種武道大会、文化部等公演会及び公開授業を中止し、直接生徒の活動を見ていただく機会が減った。
生徒指導	遅刻者数の更なる削減。	担任、学年団と連携し生徒一人ひとりに応じた指導を行う。 遅刻者数を前年度より減少させる。	B	遅刻者数は前年度並み。さらに担任、学年団と連携し生徒の状況に応じた指導を続け、遅刻者数の減少を目指す。	A	新型コロナウイルス等の影響で体調を観察していて遅刻する生徒は増えたが、担任、学年団と連携し個に応じた指導を行うことで、不注意による遅刻者は減少した。
進路指導	進路意識の高揚を図り、生徒一人ひとりの進路表現を支援する。		C	第1回進路希望調査では1年生の15%、2年生の5%が未回答であった。10月の第2回調査ではしっかり考え、調べた上で回答するよう促す。	B	1月時点で未定と回答する1、2年生は約3%であったが具体的な志望校、希望職種を回答した生徒の割合は約40%であった。進路研究をさらに深めさせる必要がある。
	地域の中で自分の役割を果たすために必要となる力を身につけさせる。	①進路希望調査で未定と回答する生徒3年生0%、1、2年生10%以内を目指す。	B	9月実施の学びの基礎診断の結果分析会を10月に実施し、基礎学力向上を目指して今後の指導に活かす。	A	10月に1、2年生の学びの基礎診断結果分析会を実施し、担任や教科担当が今後の指導の参考にすることができた。
	授業研究・学力向上の取り組みの改善にむけて共通理解を図る。		C	拡大研究授業を実施し、授業改善、学力向上につなげる。	A	第1、2回拡大研究授業では各教科の教員が参観し、各々の授業改善につなげることができた。2月実施の第3回ではさらに学力向上に活かしたい。
保健・相談	生涯を通じて健康な生活を送るために、健康について自ら考え実践する力を育てる。	健康診断の結果からの病院へかかる受療率の向上のための指導、助言を行う。 受療率50%以上。	C	現在の受療率は12.2%と低い。冬休みに受療するための働きかけとして、2学期終業式での周知等、引き続き、受療率向上のための指導、助言を継続する。	C	受療率は12.2%と低く、新型コロナウイルスを理由とした受診控えなどが考えられる。あらゆる機会を利用して、受療の意義について、指導、助言を継続したい。
	生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応。	生徒の多様なニーズに対応できるよう担任や学年主任と連携を図る。保護者の協力や理解が得られるよう、SC・SSWと関係職員の連携体制を工夫する。	B	保護者との連携をはかり、必要な場合は医療機関等との連携を実施するようにする。また、関係職員のケース会を効果的に実施し、内容を支援に生かせるようにする。	B	生徒支援委員会やSC・SSWとの情報交換より、困り感を抱える生徒の情報を共有し、連携対応につなげた。関係職員の連絡を密にし、早期発見・早期対応にさらに努めていきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育の核であるLHR（各学期2時間）の充実。	生徒が人権について「自分ごと」として考えられるよう、指導案・使用教材の改訂を進める。	B	1年生の人権・同和教育LHR指導案・使用教材を改訂した。他学年の改訂作業を今後進める。	B	3年生の指導案・使用教材の改訂が十分なものにならなかったため、次年度に改めて見直しをはかる。
特別活動	特別活動に積極的に参加することを推進し、協調精神や自己肯定力の育成を図る。	生徒会・部活動・ボランティア活動を積極的に呼びかける。 アンケート「生徒会・部活動・ボランティア活動への参加率」：80%以上。	B	生徒会・部活動・ボランティア活動の参加状況（59.9%） 生徒会活動や部活動などに取り組むことの意義を説明する機会を設け、参加を呼びかけていくことが必要。	B	1、2年生、生徒会・部活動・ボランティア活動の参加状況（61.52%）で目標を下回った。部活動の意義を伝え続けるとともに、ボランティア活動の募集の周知を積極的に行うなどして、生徒が活動に参加できる機会を与えられるようにしたい。
	学校内外の活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。	各行事における生徒の役割を明確にする。 事後アンケート「行事・クラスに貢献」：80%以上。	B	貢献度：体育祭77.8%、琴高祭：79.9% 生徒は概ね行事に対して貢献できていると感じているようである。今後の行事についても、生徒がさらに積極的に参加できるように計画していく。	B	貢献度：体育祭77.8%、琴高祭：79.9%、クラスマッチ62.8%で目標を下回った。2学期のクラスマッチでは新型コロナウイルスの流行により欠席者が増加し、十分に参加できない生徒が多かったことが影響したように思われる。今後も感染対策を行いながらも行事を十分に実施できるように計画していきたい。
	感謝の気持ちを育み、基本的な学力・マナー（時間を守る、服装等）を身に付けさせる。	漢字テスト/英単語テスト合格率80%以上。	C	継続して感謝の気持ちを育み続けたい。学習に対しては漢字テスト72%、英単語テスト64%で目標に達していない。学習に対する関心を持たせたい。	C	感謝の気持ちを言葉にする生徒が増えた。学習に対しては漢字テスト73.6%、英単語テスト69.6%で若干上昇したが、目標に達することはできなかった。
2年団	学習習慣を確立させ、基礎学力を身に付けさせる。	漢字テスト合格率94%以上。 英単語テスト合格率87%以上。	C	今までの点数を振り返らせ、毎回目標を明確にしてテストに臨ませる。（漢字92.3%、英単語84.3%）	C	漢字テスト合格率87.8%、英単語テスト合格率82.8%で、目標を下回った。毎回の生徒一人一人の目標を明確にさせ、目標に向かって努力する姿勢を身に付けさせていきたい。
	社会に出るための基本的なマナーを身に付けさせる。	授業遅刻0%、服装・頭髪違反5%以下。	B	移動教室の際に授業に遅れないよう、折に触れて言葉掛けをする。入室許可証を徹底して取りに行かせる。 服装・頭髪に関し、日頃から意識できるよう、日常的に学年団全体で取り組む。（授業遅刻は若干ある。服装・頭髪違反は再検査でほぼ0%）	B	授業遅刻は若干ある。服装・頭髪違反は再検査でほぼ0%であった。日常的な声掛けを継続していくとともに、進路選択や社会人としての生き方を考えさせる際に、時間を守ることや服装を整えることが社会人のマナーとして非常に重要であることを、しっかりと考えさせていきたい。
3年団	自己管理の確立。	アウトプットプラットフォームを活用して連絡した時間や必要な報告を入力し、社会に出るための基礎的な知識・マナーを身につけさせる。 入力生徒：80%以上。	B	入学時から活用しているので、定着している生徒が多いが、定着が難しい生徒もまだいる。緊急時の連絡やアンケート等の入力はできているが、進路に必要な学習定着等の活用利用していきたい。 入力生徒72%（126人/175人）	A	情報収集やスケジュール管理、提出等がきちんとでき、社会人になる準備ができている生徒が多い。しかし、意識の低い生徒もいるので、3年間の教養を胸に責任ある行動がとれるよう期待したい。 入力生徒89%（157人/175人）

# 令和4年度 生徒からの授業評価

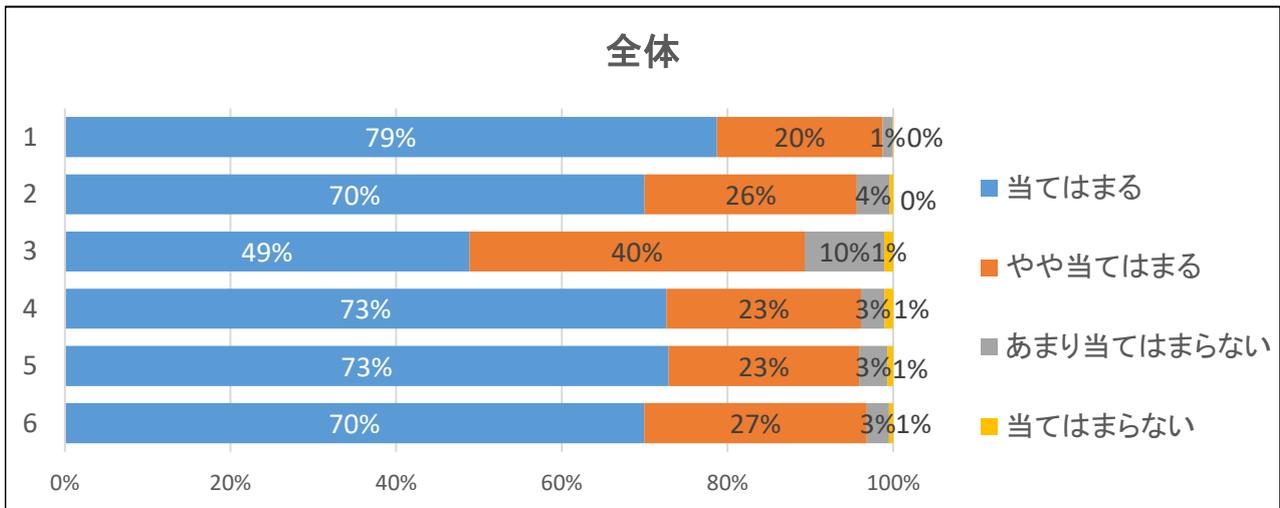
令和4年10月実施

## 【質問事項】

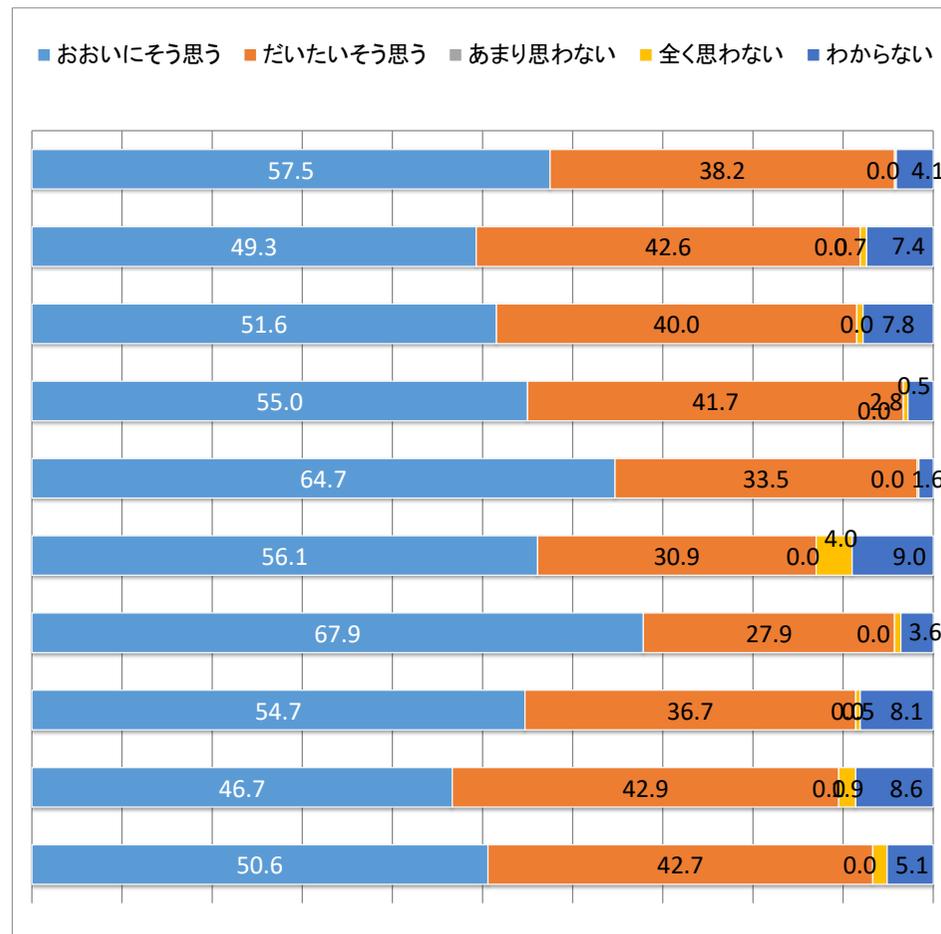
自己評価	1	授業に集中してまじめに取り組んでいる
	2	授業の準備する、課題を期日に提出する、予習復習をするなど、努力をしている
	3	努力した成果が成績に表れている
授業評価	4	先生の説明や板書はわかりやすい
	5	授業の進度はちょうどよい
	6	教え方や進め方に工夫を感じる

## 【選択肢】

①	当てはまる
②	やや当てはまる
③	あまり当てはまらない
④	当てはまらない



		おおいにそう思う・だいたいそう思う(%)	平均値(4段階)
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	95.7	3.6
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	91.9	3.5
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	91.6	3.5
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	96.7	3.6
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	98.2	3.7
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	87.0	3.5
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	95.8	3.7
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる環境にあった。	91.4	3.6
9	学校からの文書やホームページ、classiを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	89.6	3.5
10	琴平高校での高校生活に満足している。	93.3	3.5



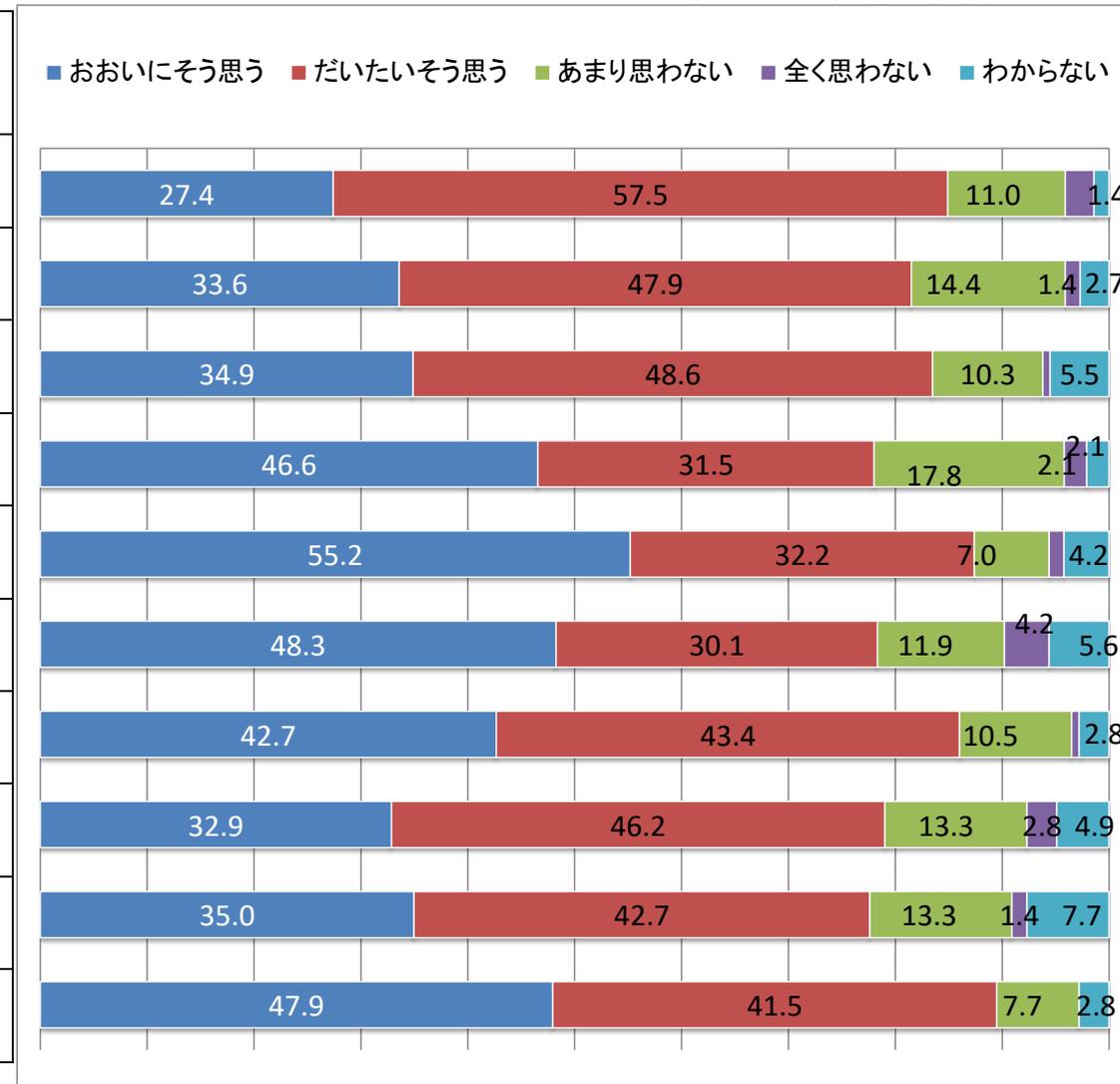
その他 意見

- ・昨年のように、翌日の日程や突然の変更などをもっとClassiで配信してほしい。
- ・生徒が使える電子レンジを設置してほしい。
- ・楽しい学校生活をありがとうございました。

令和4年度 学校評価アンケート(3年生保護者対象)

令和5年1月実施 回答者数(146名)

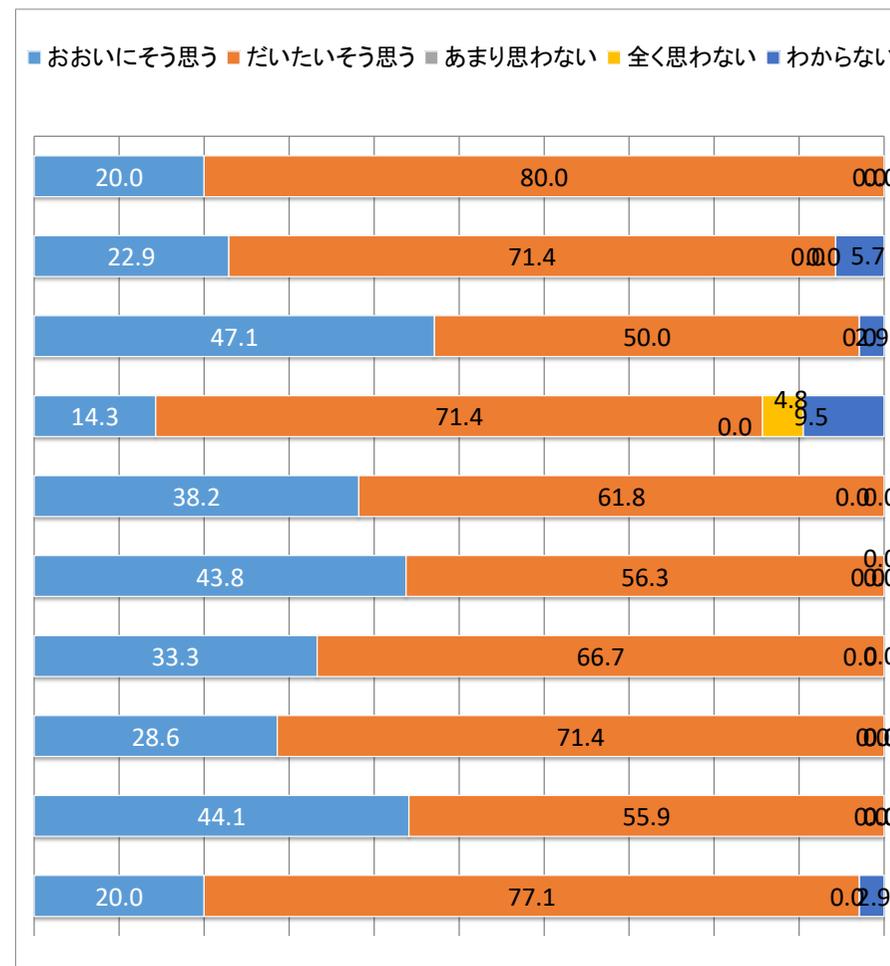
		おおいに 思う だいた いそう 思う (%)	平均値 (4段階)
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	84.9	3.1
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	81.5	3.2
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	83.5	3.2
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	78.1	3.3
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	87.4	3.5
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	78.4	3.3
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	86.1	3.3
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる環境にあった。	79.1	3.1
9	学校からの文書やホームページ、classiを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	77.7	3.2
10	琴平高校での高校生活に満足している。	89.4	3.4



その他のご意見

- ・思春期の時期で、大変なことやご苦労も多かったと思いますが、3年間通うことができたのも先生方のおかげだと感謝しております。友達とのことや部活の楽しそうに話してくれたり、休むことなく通えたことで、本人が充実した高校生活を過ごせていたことを実感しています。
- ・コロナで学校行事や部活動などの活躍する姿があまり見れなかったのですが、3年間楽しく学校に登校でき、親子共高校生活にとっても満足しています。これも先生方のおかげといつも感謝しております。
- ・三豊から毎日電車通学で初めは大丈夫なのかな？と心配していましたが、友達もたくさんでき、また、部活でも先生方に支えていただき、本当にありがとうございます。琴平高校を受験して本当に良かったと思っています。
- ・今までいろんな先生に支えてもらい時には厳しいことも言ってもらい感謝しかありません。ありがとうございました。
- ・悩みには耳を傾けて下さりありがとうございました。安心して学校に通うことができました。
- ・学校のこと相談したくても相談できる人がいなかった。もう少し子どものことを親身になってくれる先生がいてほしかったです。
- ・Classiで、翌日の下校時間や検定の予定など、こまめに知らせてほしかった。

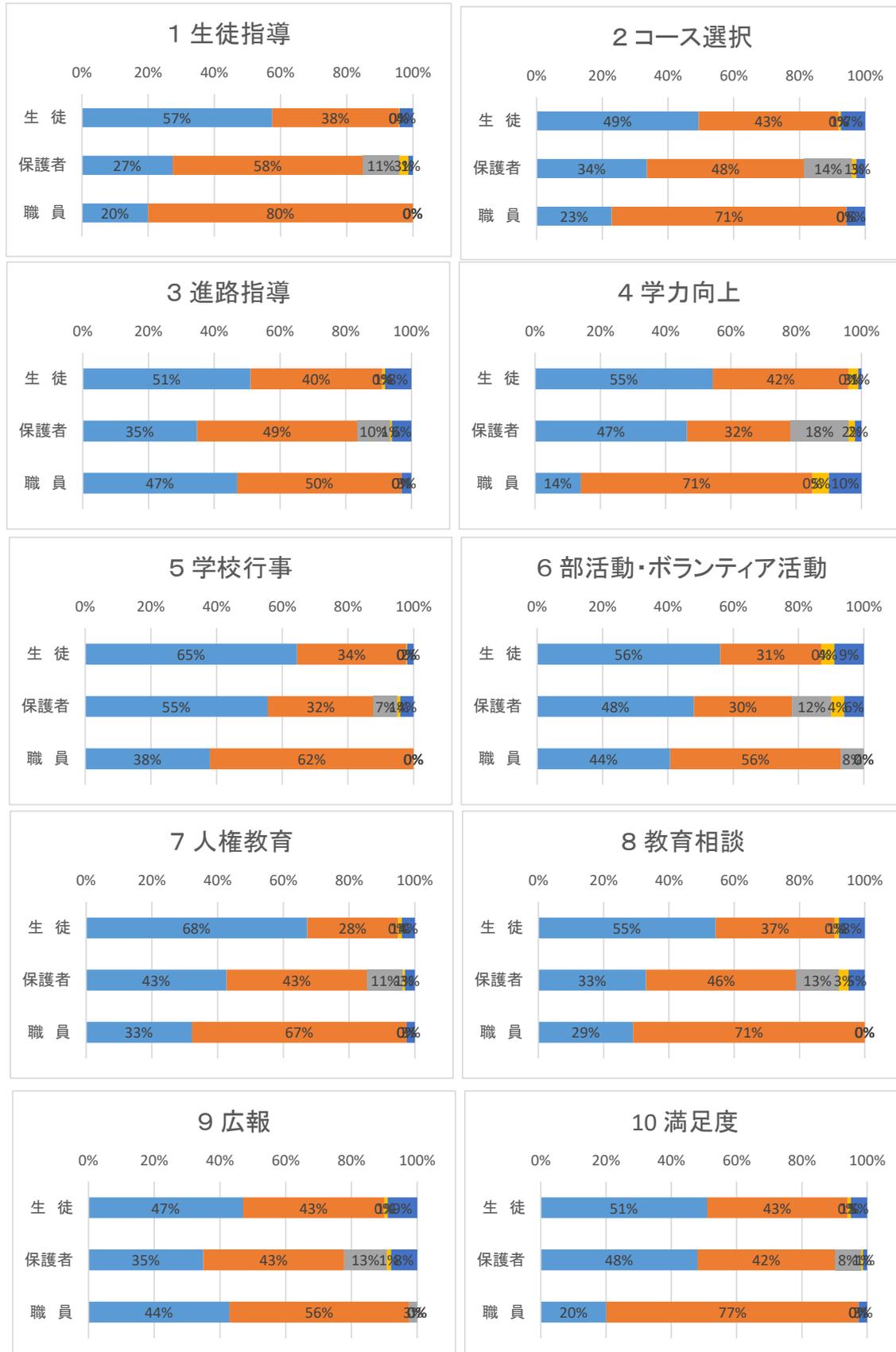
		おおいにそう思う・だいたいそう思う(%)	平均値(4段階)
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	100.0	3.2
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	94.3	3.2
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	97.1	3.5
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	85.7	3.1
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	100.0	3.4
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	100.0	3.4
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	100.0	3.3
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる環境にあった。	100.0	3.3
9	学校からの文書やホームページ、classiを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	100.0	3.4
10	琴平高校での高校生活に満足している。	97.1	3.2



その他 意見

・真面目に努力している生徒と、最低限のことしかしようとする生徒との差がとても大きいと感じる。

## 令和4年度 学校評価結果 比較



・生徒の評価は概ね高いが、保護者の評価では、「あまり思わない」が、どの項目も10%程度見られる。  
 ・今年度職員に、生徒の7割程度ができていると思ったら「だいたいそう思う」を選んで下さいと基準を示したところ、評価が上がった。しかし、生徒、保護者に比べ「おおいにそう思う」が少ない。